

## 週日の説教

金 大烈 神父 2011年6月1日(水)

### 《私達の中心には何があるか》

今日はカトリックの要理の常識について皆様に伺います。人が死んだら何処に行きますか。全ての人が例外なしに必ず行くところは「煉獄」です。これは仏教とか他の宗教、新教(プロテスタント)の信仰と違う私達カトリックの要理です。これは信じる信仰です。

人が死んで悔しいこととか、恨みがあって、この世の中を靈的な存在として彷徨うことがあり得ることでしょうか。あり得ないことでしょうか。いわゆるお化け。例えば、お姉さんのお化けが現れた。お兄さんのお化けが現れた。昨日お化けが現れたという話はよく耳にします。テレビなどでも写真を撮ったらその写真に靈が写っていたとか、変な話を見たり聞いたりしたことがあると思います。皆様はどう思いますか？ 率直におっしゃってください。現実的にあることだと思いますか。お化けはいると思いますか。

さあ、それでは改めて要理の勉強をしましょう。お化けはいます。しかしお姉さんの靈とか、人間の姿をしているかも知れませんが、誰か死んだ人のその人の魂ではありません。悪魔の悪戯です。全ての人間は死んだらそれ以後は、必ずこの世の中では全ての権利を奪われます。死んだら全ての人間は「煉獄」に行きます。そして、そこからどちらに行くかが決まるわけです。

例えば、朝鮮半島に天主教が初めて入った時、その時大きな迫害が起こりました。その理由は何だと思います？ 実際に政治的な理由もありました。政治的に権力を失って退いた者が、中国へ行って新しい学問としてあるイタリアの宣教師であるマテオ・リチ(Matteo Ricci)が書いた「天主実義」という本に出会います。その本の内容は、今まで自分達が見て来た、触って来た世界とはまったく違う世界でした。「これは素晴らしい」と、初めて学問として天主教の要理の本を受け入れたのです。朝鮮半島にも持ち帰って、規則とか法律を何も考えず自分なりに信者の群れを作ったわけです。

時間が経って中国からある宣教師が入ります。そこから本格的な教会がつくられました。ある程度勢力が大きくなって、政治家達は自分達が退けた者が、また別な新しい勢力になっているという恐れを生じたわけです。表面的にその人々を無くすための理由を作らなければならなかったのです。そして、彼らのネズミ捕りに、カトリック信者は皆引っかかってしまったのです。

皆様も儒教の影響で位牌というものをご存知ですよね。カトリック信者になった人々は、朝鮮半島では何よりもその位牌を全部燃やしました。なぜなら死んでからは神様のこと、私達は祈りを通して私達の先祖、父母のために祈ればそれで十分。神様に任せればいい。位牌とか人間が作ったものを捧む必要がないとはっきりとした結論を出したわけです。ですから政府は先祖も大事にしない悪い人達だ、人間ではなく獣たちだと言いながら殺し始めました。

私が日本に来て驚いたのはカトリック信者の家庭訪問をした時に、部屋別に違う物が置いてあるの

です。こっちには仏壇、この部屋は神棚、そして信者の部屋には聖母像とか、十字架が置いてあるのです。なぜこのようにあらゆるものが置いてあるのでしょうかと尋ねると「これは叔母さんが拝んでいたもので私も毎日行って拝みます。そして、親が信じたものがこの神棚の神様なので大事にしています。私達はカトリック信者なので。」これは、とても合理的に見えますが、そうではありません。私が渋川で無くした物はそれでした。「全部無くして下さい。」と言いました。それはどういうことでしょうか。

さあ、皆様の心はどうなっているか分かりませんが、太田に来てからも私が事あるごとに話して来たので、お一人様もそういう方はいらっしやらないでしょう。“色々なことを全部捨てて、神様の御言葉に従って信仰の生活をします”と、決断して今まで来ていますよね。そうしながらもある意味では、偶像崇拜と言えるくらい色んなものを拝んでいるのではないかと振り返ってみる必要があるのではないですか。

今の時代は、本当に偶像崇拜ではないかと思われる色んなものが、“神様の代わりに私達の真中に立っています。”ある人には、お金になるのでしょうか。ある人には若さになるかも知れません。毎日鏡を見ながら整形するかどうか。ある人には名誉。ある人には権力が偶像になっているかも知れません。

皆様、私達には拝むものは唯一つしかありません。それは、いわゆる天主、三位一体の神様しかありません。いつも皆様の真中に何があるか、わきまえて意識して下さい。神様の席に鏡が置いてあったり他の物があったりしないかよく考えるべきだと思います。

今日第1朗読(使徒言行録 17・15、22-18・1)でもそのような話が出ています。もう一つのショックを皆様に紹介します。シスターだった方なのですが5~6年前に辞められた方がいます。その方が自分の所に赴任して来た時、「この教会の近辺にはいい所が沢山ありますよ」と言って榛名神社とか、あちこち観光案内をしました。水沢に有名なお寺がありますよね。そこを案内している時、私は納得出来ない姿を目にしました。日本では大体、神社とかお寺で鈴を鳴らしてかしわで柏手を打って神様を拝む習慣がありますよね。そのシスターの姿が見えなくなって、どちらへ行かれたのでしょうかとっていると、その水沢の敷地にある金を鳴らして柏手を打っているのです。その姿を目にした時、私は「カトリックのシスターなのにどうして？何をしているの？」と、かなりのショックを受けました。

程なく何かがあって辞めることになったようですが、そういう基本的な意識を私達がちゃんと身につけて子供たちに教えなければなりません。何でも受け入れることはいいことかも知れませんが、受け入れてはいけないこともあります。ですから、そういう面でも私達の意識が必要だと思います。

ありがとうございました。